

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600381		
法人名	有限会社 楽さん家		
事業所名	24時間宅老所楽さん家		
所在地	防府市松崎町4 - 16		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町受理日	平成23年2月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多種多様に有る認知症も、一つの個性として受け全ての方が入居出来るように対応しています。その個性に対応できるスタッフ達が生活を支援します。本人、並びにご家族の、希望があれば在宅医療に向け医師と連携を取り終末を迎える事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会や地域の消防団との連携のもと、災害時の連絡網を作成しておられ、年1回の防災訓練を協力して行われるなど、地域との協力体制を築いておられます。職員の意見を聞く機会を設けられており、意見やアイデアを反映され、職員が生き生きと働けるように支援されています。また、研修の情報を職員に提供され、外部研修への段階に応じての受講や内部研修(月1回)、資格習得の支援など職員が働きながら技術や知識を身につけられるように取り組まれています。重度化や終末期に向けた指針を共有され、看取りの連絡網を作られ、家族、医師等の関係者でチームでの支援に取り組まれ、これまでに7名の看取りをされています。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常時スタッフが見ることの出来るよう掲示している	理念を「楽さん家の心」「楽さん家の心意気」として、パンフレットに掲げ、また食堂にも掲示している。月1回のミーティングで理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加、ゴミ拾いなど参加している 事業所発行の新聞を個別に入居者の方と一緒に配布し近所のスーパーにも入居者と一緒に親しい関係を作っている	自治会行事のゴミ拾いなどへの参加や回覧板を参考にして、地域の行事にも参加している。事業所便りを利用者と一緒に個別に配布したり、散歩や買い物などで挨拶を交わしたりして交流を深めている。また、地域住民からの花の差し入れや学童との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトや普及啓発事業を開催し、取り組んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は各スタッフへ配布記入している、その後供覧を行い利用している	評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組んでいる。前年度の課題を検討し、ケアを振り返り改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々事例報告など行い討議された内容や意見を記録しサービスへ繋げている、自治会の皆様との防火訓練を行っている	2ヶ月に1回開催し、外部評価結果の報告、事例報告、避難訓練の地域への協力等について意見を交換して、サービスの質の向上に活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議など出席してもらい、市との連携を行っている	運営推進会議に参加してもらうほか、高齢障害課S介護保険係や地域包括支援センターなどとの連絡を密にし、度々出向いて情報交換をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の9時～17時までは施錠なし、18時～9時の夜間のみ施錠、身体拘束は行っていない	マニュアルや方針を作成し、勉強会を実施して、職員は正しく理解してケアに取り組んでいる。日中は施錠をしておらず、見守り体制を取り、出かける時には一緒に出かけるようにしている。隣接のディサービスの協力もある。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議にて虐待防止関連について話を持ちスタッフ間に意識付けをしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会や研修に積極的に参加して行きたい		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問があればいつでも気軽に声をかけて頂けるようにし、契約の内容を文章及び口頭にて説明し理解をして頂いている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族要望シートの作成などを使用し、不満、苦情などを聞きスタッフミーティングや運営推進会議にて改善している、苦情の窓口も設け対応している	家族が気軽に話せる雰囲気をつくり、意見を運営に反映させている。相談、苦情の受付体制、第三者委員、外部機関は明示され、苦情処理の手続きも周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に時間を作り意見や不満等を、管理者、主任が聞いている。また、毎月のミーティングで意見が出やすいような環境を作っている	毎月のミーティング時や日常的に職員の気付き、アイデアを管理者、主任が聞くと共に、代表者と相談をして、防災カーテンの設置や入浴チェアの購入等意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせ、研修に参加できるような勤務体制にしている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加し内容をミーティングで報告し、資料や記録(感想等)の供覧を行っている	外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命して共有をしている。職員へ研修情報を提供し、資格習得をすすめている。新人には担当者がつき、初任者研修を行い、事業所独自の内部研修を月1回、ミーティングの後実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や学習会へ積極的に参加している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後の細やかな情報を本人もしくは家人より話して頂ける環境を作っている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から相談や説明をする時間を持ち、入居後も気軽に相談や質問を「受ける体制」を作っている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援や介護が必要か本人や家族とも 話す時間をしっかり持つようにし、必要な支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をいかし、出来ることや常に尊重の念と持ち接するよう心がけている		
20		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な不安や希望などを気軽に話してもらえよう、電話、手紙などを利用し又、来訪時もしっかり報告する形を取っている		
21	(10)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には本人の馴染みの家具や品物を可能な限り設置している、又、家族や知人がいつでも来訪出来るような環境にしている	家族等とのつながりを大切にし、墓参りや法事、自宅訪問の支援をしている。また、デイサービス利用の知り合いの方が来訪されるなど、馴染みの人や場所との関係を大切にする支援に努めている。	
22		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や談話室を設け、利用者の個性に合わせ配置や席替えなどおこない関係を保っている。また、1人になる時間を希望で有れば自室など利用してもらう。		
23		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一回スタッフミーティングで個人のケース検討を行い実施記録している	日々の関わりの中での声かけ、言葉や表情、家族からの情報等を月1回のスタッフミーティングで検討し、個別の記録、スタッフ間の気付き、工夫を反映できるよう特記ノートを作成して、把握に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より、入居前の生活歴や馴染みの情報を収集し、アセスメントシートを作成し生かしている、また入居後も情報の収集につとめている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常より入居者の事を理解できるように努めて、今現在も何が必要かを考慮している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時家族からの情報を基に、アセスメントをしっかりと行いその方に合った介護計画を立て、家族の承諾を得、又定期的に見直しや評価を行い見返している	利用者、家族からの意向や特記ノート、ミーティングレポートを共有し、アイデアプランシートを基に課題や変化状態を確認して共有し介護計画を作成している。毎月のモニタリングに基づいて介護計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と合わせ、スタッフ間による気づきや工夫など反映できるよう特記ノートを作成し実践や計画につなげている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月開いているミーティングにて本人、家族の意見や希望があればサービスの調整をその都度行っている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の避難訓練などを通して関わったり地域のまつりや行事に参加できるよう努力していく		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者の定期的通院表を作成し支援を行い、又、他突発に起きた疾病に対しても主治医への受診に対応している	協力医療機関と隣接しており、体調に変化があれば随時報告するなど、事業所との関係を築いている。月1回の定期受診や病状の変化に伴う往診を受けられるようにするなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を行い、介護スタッフからの情報を常時行うよう指導している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃より家人へ情報を提供し何度も話し合う機会を設け方針をその都度確認して行きスタッフミーティングでも情報を共有している	入居時に指針を示して同意を得て、状況変化の度に家族や医師と話し合いを繰り返している。職員もスタッフミーティング時に共有し、看取りの連絡網をつくりチームで支援に取り組んでいる。事業所では、これまでの7人の看取りに取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時の対応の研修を行い、スタッフ全員取り組んでいる	マニュアルを作成し、事故報告書等に記録して検討後に家族に説明している。救急対応の研修を実施し、連絡網の作成をしている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	・応急対応、初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の私設消防団と協力体制を作り年2回訓練を行っている	マニュアルを作成し、年2回昼、夜想定避難訓練を実施している。年1回は自治会と一緒に避難訓練を実施すると共に、自治会、消防団との連絡体制があり、協力関係が築かれている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人意識付けを行っている	人格の尊重とプライバシーの保護についてのマニュアルを作成し、研修を行い、言葉かけや対応に配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望ややりたい事を自己で決定できるよう努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にその都度対応できるよう、スタッフ間の連携と徹底している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを聞いたり、散髪ボランティアを利用し身だしなみに心がけている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを身につけスタッフも一緒にいき、楽しく支援が行えるよう努めている	三食とも事業所で調理し、利用者は盛り付け、下膳などできることを職員と一緒にして、同じ食卓で話しながら楽しく食事をしている。採りたての野菜が食卓にあがる事もある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分のチェック表をつけて、体調管理をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている、その方に合った口腔ケア用具を用いて清潔の保持に努めている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をして、トイレで排泄出来るよう支援している。紙パット等の使用も本人に合わせて検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品などを積極的に飲用してもらい、腹部マッサージなどを施行し自然排便を促している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れるようになっている 体調にあわせて入浴してもらっている	毎日15時から18時までいつでも入浴できるようにしている。職員2人体制で入浴支援を行い、個々にあわせて、足浴やシャワーなどで入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の状況などにあわせ必要時はお昼寝など声かけや支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフのすぐ目に入るところへ内服のファイリングを設置し確認が出来るようにしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	医師、家族と相談し本人の体調に合わせ支援している	昔の経験を活かした納涼祭でのおでん作りや看板作り、掃除、茶碗洗い、洗濯物たたみ、草取り、花や野菜作り、歌、調理など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて近くのスーパーで買い物、墓参り、家族と相談し帰宅などの支援をしている	年間行事予定表を作り、季節ごとの花見、ほたる見物、紅葉狩りなどに出かけたり、日常的に外気浴、散歩、買い物に出かけている。普段行けない所には家族と協力しながら、出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金を持ちたいと希望があれば可能な限り対応している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人が電話や手紙を書く支援は出来ていない		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような工夫や(花などを飾る)写真など貼ったり、その時々に合わせて行事(花見、クリスマス会など)も行っている	居間兼食堂は台所と対面で、スタッフルームも併設されているため、家族的な雰囲気、ソファや本、雑誌、新聞が置かれており、利用者の居場所ともなっている。また、大きな窓から日射しが入ってくるので明るく、利用者は和やかに談笑しながら、ゆったりと過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、会話や音楽鑑賞やTVをみたり、共同で楽しむ空間作りや廊下にはちょっと座れるように工夫した場所を設置している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの家具や家族や友人の写真などを飾ったりし、少しでも早く慣れ親しんで頂けるようにしている	時計、鏡台、人形、テレビ、衣装ケース、ベッド等、使い慣れた物や好みの物を活かして、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力などを把握し出来ること、やれることを見つけ生活してもらっている 手すりなどもしっかり設置し安全に努めている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 24時間宅老所 楽さん家

作成日：平成 23年 2月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時に備えて、職員は応急手 当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	応急対応、初期対応の定期的訓練の実施。	救急対応研修への参加を行い、定期的に訓練 を行えるよう看護師が指導者となり、ミーティ ングの時間を利用して行っていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。